

# ゲートボール普及活動事業(第2期)『挑戦の流儀』(R7～R12)

発祥の地 芽室町

## 1 目的

ゲートボールの再生に向けた挑戦の流儀は、本町発祥のスポーツとして、

① 活動しやすい環境を安定的に整備すること

② 多様な普及活動を加速させること

③ 各種大会や交流機会の充実に向けた対策を集中的に実施すること

を目指し、町が主導的な役割を果たすほか、関係機関、団体と認識を共有し、ゲートボールの灯を絶やさず再燃させることを目的とします。

## 2 ゲートボール再生に向けた取組

ア 活動しやすい環境づくり

(1)健康プラザ及び南公園運動広場の利用、整備

① 使用料の免除

② 屋内外コートの確保と定期メンテナンス

③ ゲートボール協会、少年団、社会人チームの優先利用(イベント等除く)

(2)各種助成

① 全国大会出場助成の継続

② 審判員資格の新規取得、更新に対する助成

(3)生涯にわたり活動できる拠点整備

① 持続可能な活動支援・研究(ゲートボール協会・少年団への支援・総合型地域スポーツクラブ・部活動の地域展開等の研究等)

イ ゲートボール競技の普及促進

(1)小中学生の普及

① 町内すべての児童・生徒にゲートボール体験

② 少年団活動への継続的支援

(2)高校生の普及

① 高校生愛好者への活動支援(芽室高校・白樺学園・帯広大谷高校)

② その他北海道内の高校生へのアプローチ

③ 合宿事業の継続

(3)大学生等の普及

① 岩見沢教育大との連携継続

② その他北海道内の大学生、短大生等へのアプローチ

(4)現役世代への普及

① 町職員の普及活動への参画と競技体験の継続

② 町内企業を主に町外企業等への普及活動

③ 各種初心者大会への参加アプローチ

(5)高齢世代への普及

① 現役ゲートボーラーへの支援

② 初心者ゲートボーラーの育成支援

③ 仲間と共に健康づくり

## (6)その他普及事業

- ① 提携団体との連携(スカイアース、コンサドーレ等)
- ② レクリエーション、祭り、イベント等での体験会等の実施
- ③ 町のホームページ、SNS 等の発信
- ④ 初心者体験用ゲートボール用品の確保

## ウ 交流機会の仕掛け

### (1)初心者向け体験機会の充実

- ① ローカルルールの設定により簡易的で親しみやすい競技実施
- ② 町内企業等への案内、体験機会の確保

### (2)町内外の交流機会

- ① 中高生交流会(学校対抗、定期戦)
- ② 社会人チーム、職場チームの交流会
- ③ 高齢者の健康づくり交流会
- ④ 3世代チームによる交流会
- ⑤ 十勝発祥スポーツ交流会

## エ マナーアップ運動の展開

### (1)ルールとマナーの周知

- ① チームスポーツの魅力
- ② ルールを正しく楽しむ
- ③ 心遣いとコミュニケーション

## 3 発祥の地杯全国ゲートボール大会

大会の基本的な考え方は、令和3年度から「親善的な大会を基調にしながら、より競技性の高い大会とすることでスポーツとしてのゲートボールの魅力を高め、子ども達も出場を目指す大会とする」としています。

大会運営においては、競技としてのゲートボール振興であると同時に、本町発祥のスポーツであるという貴重な資源を最大限考慮した内容とします。

今後、この大会が目指すべき姿を関係機関等と創り上げていきますが、これまで培ってきた『おもてなし』の心を大切にし、芽室町らしい大会運営を行います。

大会参加チーム数がコロナ禍を経て減少傾向にあるので、参加チーム数を維持するため、様々な機会を通して参加のアプローチを実施します。

## 4 関係機関との連携について

### (1)日本ゲートボール連合との連携

これまで実施してきた再生プロジェクトを糧とし、2024年度から新たなスキームとして、次のとおり展開をしていくことを表明したことから、芽室町もこの構想を共有し、ゲートボール再生に向け、共に進んでいくものであります。

- ① ゲートボールを通して人々にスポーツをする楽しみと健康を与え、全世代が楽しめるゲートボールを目指す。
- ② ゲートボールで地域と共生し、社会貢献をする。
- ③ 日本発祥のスポーツとしての自覚と誇りを持ち、世界へ普及し、ゲートボールの国際交流を促進する。

## (2) 東京ゲートボール連合との連携

東京ゲートボール連合とは、令和4年8月に包括連携協定を結び、ゲートボール競技の普及を共に目指します。

相互主催大会への参加、若い世代への人材育成と発掘、ユニバーサルスポーツ化への支援、研修事業等を通し、ゲートボール普及について相互協力していくことを確認しています。

## (3) 北海道ゲートボール連合等との連携

北海道ゲートボール連合の事務局は、令和6年度より芽室町内に移行するとともに、十勝ゲートボール連合の事務局も芽室町に設置されていることから、北海道内、十勝管内のゲートボール振興を一体的に協力しながらゲートボール振興を進めます。

## (4) 町内関係機関との連携

芽室町ゲートボール協会、芽室町ゲートボール推進協議会等の関係機関とともに、新たな町内競技者の発掘、発祥の地ゲートボール大会の運営協力等を通してゲートボール振興を進めます。

## (5) その他関係機関との連携

発祥の地としてゲートボール振興を推進していくうえでは、これまで連携してきたブラジルゲートボール連合やパラグアイゲートボール連合をはじめとする国際的なつながりの継続とともに、ゲートボールの盛んな国や他府県との連携も検討して参ります。

## 5 目標年度に目指す姿(KPI)

年々減少傾向にある競技者等について、様々な取組から減少傾向に歯止めをかけるため以下の取組に目標を定め、達成に向けた取組を実施します。

(基準年度(R6)から令和12年度に目指すべき目標を設定)

### (1) 町内の競技人口(ゲートボール協会員数)

R6 年度(基準年度) 113 人 R12 年度 115 人 ※現状維持以上

### (2) 町内の大会・交流会等参加者数

R6 年度(基準年度) 1,008 人 R12 年度 1,200 人 ※現状の 2 割増

### (3) 初心者教室の参加者数

R6 年度(基準年度) 16 人 R12 年度 20 人 ※現状の 2 割増

### (4) 高校生以下の初心者が体験できる機会

R6 年度(基準年度) 16 回 R12 年度 20 回 ※現状の 2 割増

### (5) 発祥の地杯全国ゲートボール大会の参加チーム数

R6 年度(基準年度) 50 チーム R12 年度 50 チーム ※現状維持以上

### (6) 審判員数 ※基準年度

R6 年度(基準年度) 67 人 R12 年度 70 人 ※現状維持以上

#### ※取組期間の設定について

当初の取組期間については、日本ゲートボール連合が掲げた「ゲートボール再生プロジェクト」『ゲートボール“Beyond 2024”構想』に合わせ、令和3年度から令和6年度までの4年間としました。

今後の推進期間の設定について、今回は令和7年度から令和12年度としましたが、町の施策の中心となる総合計画及び第2期社会教育推進中期計画との施策の方向性を一致していくことを考慮し、令和9年度に向け内容の確認等を行います。

令和13年度からは、総合計画等にあわせ、4年毎とします。

#### ※参考(挑戦の流儀設定期間)

第1期 令和3年度～令和6年度(第1期) 4年間

第2期 令和7年度～令和12年度(令和9年度前に内容確認) 6年間

第3期 令和13年度～令和16年度 4年間を予定